



写真前列中央が星 朋子さん

きたかた子育てサポート・センター

代表 星 朋子 さん

平成 21 年 1 月 15 日設立 スタッフ 6 名（平成 26 年 12 月 1 日）

子育て支援を主な活動とし、ファミリーサポートの事務局及び「きたかた子どもステーション」の運営を行っている。

子育てに対する不安や負担を軽減するなど親子にとってよりよい環境を提供している。

活動を始めたきっかけ

平成 19 年に開催された「喜多方蔵のまちづくり博覧会」の取り組みの中で、女性たちが身近なところから喜多方での生活に根ざしたまちづくりを考える「まちづくり語り合い」が行われました。あづま旅館の齋藤百合子さんがコーディネーターとなり、会津坂下町の NPO こころの森の理事の方から「ファミリーサポート事業」の概要についての説明を受けました。そこで、母親が急に残業になったときの託児や学校の参観日のときに下の子を見てもらうなどのちょっとした手助けができる仕組みがあることを知りました。

若い方は転勤が決まるとまず子育てや医療環境を調べ、それから住むところを探すということを聞き、地域の仕組みづくりが大切だと痛感しました。その後ファミリーサポート提供会員の講習会があるので受けてみてはどうかと勧められ、講習を受講しました。

平成 20 年に「地方の元気再生事業～日本一の蔵再生による町おこし」という事業の中で、空き蔵を利用して近所の方や観光客に気軽に立ち寄ってもらえる「まちの茶の間“蔵テラス”」を開設し、ファミリーサポートの事務局を立ち上げ準備を始めました。

“蔵テラス”では、今までご近所さんとしてあいさつを交わす程度だった方たちが互いに立ち寄って親しくなっていったり、地元のお年寄りが観光客の方に喜多方の歴史を説明したりなどいろいろな出会いを目の当たりにしました。

元気再生事業が終了し、蔵を借りることができなくなり、新たな事務所の場所を探していたとき、ふれあい通りの旧大善呉服店の空き店舗が利用できるとの情報があり、大家さんのご好意で借りられるようになりました。決定してから短期間のうちに準備を進め、平成 21 年 4 月 25 日に「きたかた子どもステーション」をオープンすることとなりました。こういった事業はまちの方たちの協力があってこそなので、私たちの事業を理解していただけてとてもありがたいと思っています。



子どもステーションオープン

現在の活動内容

核家族化や、共働きによって子育てに協力してもらうことが難しくなっている中で、働く母親のニーズに答えるため、女性ならではの視点を活かし、子育て支援を主に活動しています。

現在、「きたかた子どもステーション」「ファミリーサポート事業」「ホームスタート事業」の三つの事業を行っています。



子どもステーション

一つ目の「きたかた子どもステーション」は、まちの遊び場として、ふれあい通りの旧店舗を開放している施設で、木曜日を除く午前10時から午後4時まで保護者同伴の方ならどなたでも無料で利用することができます。遊具や絵本があり、就学時前の乳幼児を連れた方が来所し、子どもたちが元気に遊んでいます。お母さん同士の情報交換やスタッフから子育てのアドバイスを受けるなど親子の交流の場となっています。

利用されている方からは、子どもが楽しみにしていて、自分もたくさんのお母さんと話すことで励みになっているとの声を聞きます。遊具や絵本はすべて寄付で集まったもので、これもまちの方たちに支えられています。観光客の方も含め、年間のべ5,000人程が来所されています。

二つ目の「ファミリーサポート事業」は子育ての支援をお願いしたい依頼会員と子育てのお手伝いをする提供会員との間の有償の相互扶助サービスです。急な残業などで子どもを預けたいといった依頼会員のニーズに対して提供会員が自宅で託児を行います。

提供会員は子育てが一段落した40歳から60歳代の方が多く、講習を受けて活動していただいています。

子どもたちにとっては、様々な世代の方と触れ合うことができ、その中でルールやマナーを覚える機会にもなります。また、提供会員さんからは「子どもたちから元気を貰った」とか、「家庭での話題が増え明るくなった」という声をいただいています。

子育て中の母親が不安を感じているとその子どもも不安に感じてしまうこともあるでしょうし、母親がリフレッシュでき、笑顔でいれば子どもも笑顔で過ごすことができます。

提供会員さんは同じ方が見てくださることが多いので、子どもの成長が分かったとともに、お母さんにとっては一緒に子育てをしてもらっているような安心感があると思います。現在約100名の提供会員さんが、みなさん熱い想いを持って活動しています。

三つ目の「ホームスタートきたかた」は、子育てに悩みを持つ母親に寄り添うための取り組みで、大変な時期を乗り越えるサポートをしています。

活動の内容は、1週間に1度自宅へ伺い、2時間程度話を聴いたり、一緒にお子さんと遊んだりするボランティア活動で、研修を受けたボランティア(ビジター)が無償で活動しています。

最近はインターネットなどでいろいろな情報があふれているために、何を信じていいのか自分の子育てに自信が持てず不安になるお母さんが増えています。実際にホームスタートを利用された方からは「話を聴いてもらい気持ちに余裕ができた。」という声を聞き、ボランティアの方もやりがいを感じています。

会員さんの中には「離れて住んでいる娘もまわりの方々に助けられながら子育てをしていると思うの

で、私は住んでいる喜多方でだれかの手助けをしたいと思います」という方もいます。子育てはまさに「お互い様」の精神が重要だと思います。「お互い様」を合言葉に子育てをしていけたらきっとすばらしい社会になるはずです。

子育ては大変なときこそ声を出してほしい、そうでなければ自分も子どもも追い込んでしまうかもしれません。声に出してもらい、それに対しての手助けをしていきたいとの思いで活動をしています。

震災直後は押切川体育館に避難してきた親子がたくさんいらっしゃいましたので、外で遊べない子どもたちや避難先での慣れない生活での不安やとまどいを少しでも解消してもらうため避難の方がいらした3ヶ月間、週に一度体育館での託児を行いました。

活動を通じて伝えていきたいこと

自分は自営業だったので、子育てに集中できる時期がありましたが、世間から取り残されていると感じることもありました。そんな時「せっかくなら楽しんで子育てをしよう」と気持ちを切り換えてからとても気持ちが楽になり、子どもとの関係も良くなっていきました。子育ては大変なことや苦労も多いですが、過ぎてしまえば意外と短い期間なので楽しんでもらいたいというのが今の活動を始めたきっかけです。

子どものときに楽しい経験をたくさんして、大人になったときに自分もいろいろな方にお世話になって大きくなったと思いだしてもらえたらうれしいです。そして大人になったとき「自分もなにかできることをしよう」と思ってもらえたら幸せに感じます。

活動を通じて、自分も子育てのときにたくさんの方にお世話になったと改めて感じました。これからも自分ができることをしていきたいと考えています。

今後の展望

特別大きなことをするのではなく、これまでの活動の積み重ねを地道に続けていきたいと考えています。子どもステーションでは毎月イベントもあり、ハロウィンパレードのときは商店街の方に取りためていただいたペットボトルのキャップを集めて、社会福祉協議会へ寄附をしています。

まちなかに子どもステーションがあることで、小さい子を連れのお母さんたちが歩いている姿や子どもたちの声が聞こえたりして商店街が明るい雰囲気になって良かったと地域の方も喜んでくださっています。子どもステーションの中で遊んでいるお子さんにガラス越しに手を振ってくださる方もいます。

子どもステーションは観光客の方も利用できますので、おむつ替えやお父さんがラーメン屋に並んでいる間、子どもとお母さんが遊んで待っていたり、お孫さんが帰って来たときや里帰りした方が遊びに来たりと様々な方が利用されています。震災で喜多方に避難してこられた方がお孫さんを連れて遊びに来たことがきっかけでファミリーサポートの会員になっていただいたり新たな出会いもあり、自分たちの取り組みを理解して輪が広がっていくことはとても喜ばしいことです。



ハロウィンパレード

仕事と子育ての両立

仕事と子育てを両立させるためには、家族の理解と協力がなくてはならないと思っています。

最初は主人から子どもたちが大きくなったときに『空の巣症候群』にならないように「子育てが落ち着いたら、まちづくりに携わってみないか」と言われたのが今の事業にかかわるきっかけでした。今では両親も子どもたちも協力してくれるようになり、感謝しています。

子育ては家庭だけではなく、地域やできるだけ多くの方にかかわりをもってもらうことが大切だと思います。昔は悪いことをすれば近所のおじさんにおこられることもありましたが、子どもにとってしつけは大事なことです。

ファミリーサポートを利用している方が、「子どもが自分で家の玄関でくつを並べるようになった」と喜んでいました。母親に褒められると子どももうれしいですし、親も子どもの成長を感じることができます。みんなで子育てをしていく環境を作り、成長していく姿を見守っていきたいです。

振り返れば自分の子育ては気持ちの余裕がなく、いっぱいいっぱいでしたが、今だからこそ自分の経験を活かして活動が続けていきたいです。

交流の輪

事業を始めたときはここまでになるとは思ってもいませんでしたが、多くの方に支えられて少しずつハードルを乗り越えることができたと感じています。自分自身の勉強になりましたし、子育てを通じての地域交流を図ることができるようこれからも勉強していきたいと思っています。

「人の集まり」から「人の交流」へ、そして「地域の交流」へ繋がっていければうれしいです。

子育ての環境が整えば、そこから輪が広がります。そして、その輪がさらに大きくなり、住んで良かったと思えるまちづくりを目指していきたいと思っています。